

No. 1641

省エネ

— 東京 —

2月は省エネルギー月間です。昨年11月に国会議事堂前庭につくられた国会開設100年記念の噴水塔も節水のために止められたまま。国会近くの三宅坂にある「平和の群像」の下にあるライオンの口も乾いたままの状態が春までつづきそうです。省エネに反するように、イルミネーションが輝くのは新宿高層ビル街。しかし、この夜の輝きもバレンタインデーの2月14日だけのスペシャルサービスで平日は高層ビルも節電に協力。資源の無駄使いと批判されるのが買い物用のポリ袋。1年間に200億枚も消費されているとか。都内のスーパーではポリ袋を減らす実験を1月から行っています。ポリ袋を要らないと言うお客に1個のスタンプを押し20個たまると100円相当の買い物券と交換するというもの。1月からスタートしてお客の協力は平均5%の協力率ですが、実験は4月まで続けられます。資源の無駄使いを減らすために身近なことから協力したいものです。

湾岸戦争

— 問われる日本 —

2月24日、遂に多国籍軍とイラク軍は地上戦に突入しました。昨年8月2日イラクがクウェートに侵攻して以来、国連のイラクのクウェートからの撤退要求、そして武力行使決議の結果、1月17日湾岸戦争が開戦、アメリカを中心とした多国籍軍のイラクへの1ヶ月にわたる猛攻撃に2月22日フセイン・イラク大統領はソ連とイラクによる8項目の和平案を示しましたがブッシュ・アメリカ大統領は国連安保理決議の「無条件・即時撤退」を満たしていないと受入を拒否、そして24日午前2時までの撤退を要求、しかしイラクが拒否したため24日午前5時多国籍軍は地上戦に突入したのです。日本国内でも、戦争反対、即時停戦を訴える運動が広がっています。代々木公園では大学生による音楽を通して平和を求める集会が開かれ各地から集まったグループの熱心な演奏が続けられました。国会では、日本がこの湾岸戦争にどういう理念と具体策を提示するのかが焦点となりました。土井社会党委員長は「90億ドルの追加支援は憲法違反であり、その理由を国民に説明せよ」と質問。海部首相は「憲法上、多国籍軍に参加できない以上、資金面で援助するのは当然のこと」と答弁。戦後、「経済成長至上主義」に走り「国際社会の中で何を成すべきか」という本質的論議を避けて来た日本は湾岸戦争を契機に平和憲法の理念、国際貢献について問われているのです。